

## 「めざせ、シマウシ」

県立神戸高等学校長  
新谷 浩一

### ○ 春に恋い焦がれて

先月の中旬、華道部が飾ってくれた花は少しだけ春の匂いを感じさせてくれました。『本日の花材は枝の先に小さく蕾がついたガクアジサイ、ピンク色のスイートピー、菜の花です。冬も明け、暖かい春が訪れようとしています。まだまだ寒い日々が続いています。何卒お体にお気を付けください』 すすくと背を伸ばすガクアジサイと華やかなスイートピーが気持ちを明るくさせてくれます。



春遠からじ、ということでしょうか。再びイベントまみれの日々が始まりました。先月末には本校の先生方が運営の中心となって開催する「第18回サイエンスフェア」でした。高校生たちの科学技術分野における研究の活性化や様々な力の育成を目的とする大会ですが、今年は32校の高校、4大学、20もの企業等に集まっていたいただいたお蔭で、参加人数は1200人を超えました。ちなみに大会主催者として大会冊子の巻頭言を書く必要のあった私は、その中にこんな挿話を加えました。

昨夏、私たちの耳目を集めたのは米国のボストン大学で開催されたイグ・ノーベル賞の授賞式でした。この賞は人々を笑わせ、考えさせる優れた研究を顕彰する賞ですが、「生物学賞」に選ばれたのは黒いウシにシマウマ模様を付けて「シマウシ」にすると蚊などの吸血昆虫をよける、ということを発見した日本の研究チームでした。

吸血昆虫に刺されたウシの伝染病への感染リスクなどに、飼育農家が苦しんでいることを知った研究者が「シマウマはしま模様があるおかげで虫に刺されにくい」との海外の論文を読み、「ウシにしま模様をつけると課題解決につながるのでは」と考えたのが研究の始まりで、実験の結果その仮説はほぼ正しいことが証明されたそうです。

現代社会が抱える様々な問題に興味・関心を持ち、好奇心を掻き立てられ、理数系の専門的な知識と探究心を活かして解決に導く、これこそが創造性豊かな科学技術人材ならではのロマンであり、これからの理数教育が科学技術人材に求める素養のひとつと言えます。この度の交流で互いに刺激しあうことで科学に対する興味関心をいっそう高め、それぞれの取り組みが深化する契機となるよう心から願っています。



さて、この日、総合理学科2年生は会場準備から研究発表、大会後の後片付けと大車輪の活躍を見せてくれました。1年生も多くの生徒が参加し、会場の雰囲気や発表の様子を学んでくれました。また、本校の多くの先生方が大会を下支えしてくれました。



自分で見つけた疑問や問題について、調べ考えることで答えを見つけ出す探究的な学び。その成果が社会をよりよくすることに繋がるとしたら、素敵ですよね。「世のためになる」その鍵は誰もが持っているのです。

